

スタイリスト演習における実践的授業の展開とその評価

白坂 文

SHIRASAKA Aya

本学家政学科ファッション専攻では、卒業後多くの学生がファッションアドバイザー（販売員、以下FA）として就職しているが、今や成熟した消費者のファッション生活を満足させるためには、FAは単に商品を売るだけではなく、消費者の個性を引き出す、スタイリシティックな感性が要求される時代となった。スタイリスト演習ではFAにスタイリングテクニックやディスプレイ、接客販売によるプレゼンテーション等の話を聞く機会を、学外授業として設けている。本研究では、昨年学外授業でフィッターとして参加した、『Sweet Society 2009 X' mas』での体験と学生による評価について報告し、併せてスタイリスト演習における実践的授業の今後の展開について述べる。

キーワード：FA、スタイリスト、感性、スタイリングテクニック、接客販売、フィッター

1. はじめに

著者が担当している「スタイリスト演習」では、本専攻の学生がFAとして就職するのが多いことから、消費者の様々な生活シーン、シーズン、テイストといったスタイリングの要素を知り、自分の好みに陥らない、客観的な洋服のコーディネート提案ができるよう、感性表現の演習を行ってきた。しかし、学生にスタイリスト演習の感想を聞くと、「もっと多くの現場の声を聞く機会を増やして欲しい」という、学外授業への要望が多かった。

昨年、イベント企画を手がけるクーニーカフェ社の群馬氏より、『Sweet Society 2009 X' mas』のファッションショーに、本専攻の学生をフィッター役として使いたいとお話を頂いた。「プロのスタイリスト」に指導してもらえることや、フィッター役としてファッションショーに参加できることは、滅多にない貴重な経験であり、また華やかに見えるスタイリストの仕事が、実際はどのようなものかを間近に体験できることは、学生にとって大変有意義であると考え、本演習の学外授業の一環として参加することとした。

学生がスタイリストという仕事をいかに理解できたか、今回の学外授業で学生は何を得たのかを調査し、

学生の評価から今後の授業展開を検討したい。

2. 方法

2-1 調査対象及び調査時期

調査対象者は、スタイリスト演習受講者17名のうち当日参加した13名と、受講者以外の2回生2名、1回生の4名の計19名に対して、平成22年1月に実施した。

2-2 調査方法

調査は質問紙法を用い、質問項目は6つ、選択肢は5つとし、自由記述式も併用した。

3. 実習内容

平成21年11月29日、ホテル阪急インターナショナル茶苑にて開催された『Sweet Society X' mas』は、ヘアサロン、ブランド、アーティストが繰り広げる、ビューティ、ファッション、ミュージックが融合した新しいスタイルのパーティイベントで、EXIT社の企画により、文化庁文化力プロジェクトが後援、阪急百貨

店が衣装協力し、Sweet Society 実行委員会が主催となり、PIF 社が制作するもので、今回で早や 10 回を数えるイベントとなっている。

ファッションショーは二部構成となっており、それぞれのステージで、ヘア・コンテスト、韓流歌手の「K」や「Sunya」、「alan」といった国際色豊かなミュージシャンのライブが行われる。

参加ブランドは阪急百貨店より「Honey Bunch」「mini & roger」「Jolly Boutique」「Cynthia Rowley」「Language」「icB」「JOSEPH」「QUEENS COURT」「Viaggio Blu」「BLACK by moussy」「Salvatore Ferragamo」の 11 ブランド。出演モデルは、スペシャルゲストの松雪泰子をはじめ、テレビや雑誌で活躍する RIZA、青山レイラ、安藤沙耶香、Camillia、紺野ゆり、JULIANA、道端カレン、渡辺枝里子、渡香奈、RENA、その他 8 人の大阪モデルたちである。

今回のファッションショーで、学生はプロのスタイリストの指示に従い、

- ・衣装や小物の準備
- ・フィッティングカードの作成
- ・衣装合わせ
- ・小物の手入れ
- ・本番での衣装の着せ付け
- ・片付け

と、ファッションショーの舞台裏を一通りすべて体験した。後日アンケートに答えてもらい、今回の学外授業についての評価に関して分析を行った。

4. 結果および考察

以下、学生へのアンケート結果の分析を行う。

4-1 フィッターに参加してよかったか

図 1 によると、フィッターに参加して「大変良かった」32%、「良かった」47%、「どちらでもない」16%、「あまり良くなかった」5%、「全く良くなかった」0%との回答で、約 8 割の者がフィッターに参加して良かったと感じている。

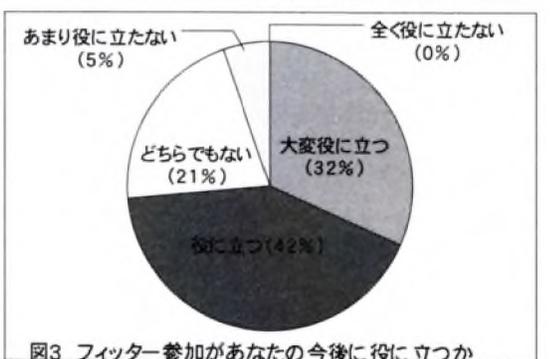
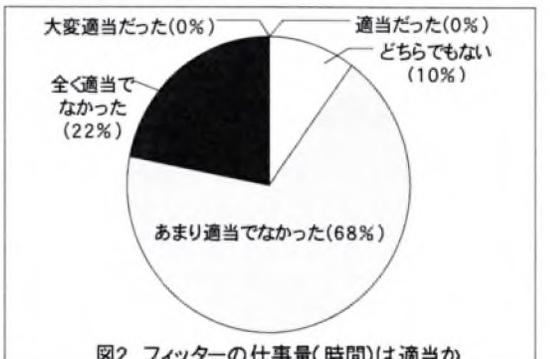
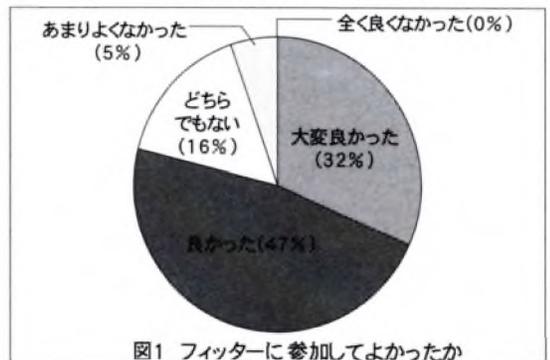
4-2 フィッターの仕事量(時間)は適当か

図 2 によると「あまり適当でなかった」と、「全く適当でなかった」とで、約 9 割となった。モデルに合わせた洋服のサイズ変更の縫製作業や、小物の手入れといった、予定外の作業が頻発したことにより、事前に配布されていたスケジュール通りに進まず、昼食をと

る時間もトイレに行く暇もない程、作業に追われたことから、このような評価になったと思われる。

4-3 フィッター参加があなたの今後に役立つか

図 3 によると、「大変役立つ」32%、「役に立つ」42%、「どちらでもない」21%、「あまり役に立たない」5%、「全く役に立たない」0%と、今後に比較的役立つと感じている者が 7 割を超える結果となった。4-2 で述べたように、予定外の作業が頻発したり、仕事量が思っていたよりも多いということを実体験として感じる事が出来たことが、この結果に繋がった一因と考えられる。



4-4 意欲的にフィッターを行ったか

図4によると、「大変意欲的に行った」61%、「意欲的に行った」29%、「どちらでもない」10%、「あまり意欲的に行わなかった」0%、「全く意欲的に行わなかった」0%と、9割の者がショーの成功というやりがいを持って、意欲的に取り組んでいたことが分かる。

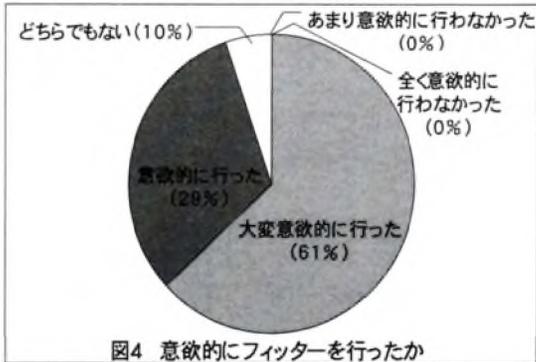


図4 意欲的にフィッターを行ったか

4-5 スタイリストの仕事を理解できたか

「大変理解できた」63%、「理解できた」16%、「どちらでもない」16%、「あまり理解できなかった」5%、「全く理解できなかった」0%と、実体験を通して大多数の者がスタイリストの仕事について身をもって理解できたようである。

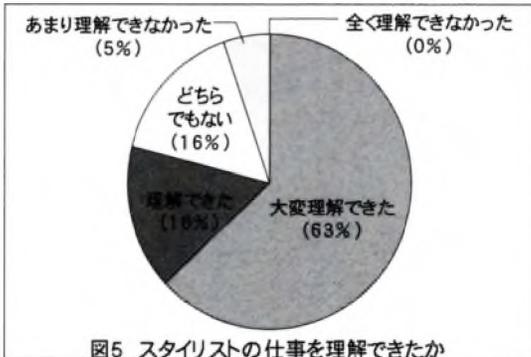


図5 スタイリストの仕事を理解できたか

4-6 今回の学外授業は有効であったか

「大変有効であった」48%、「有効であった」52%と、今回フィッター参加した全員が有効であったと感じていることが分かる。

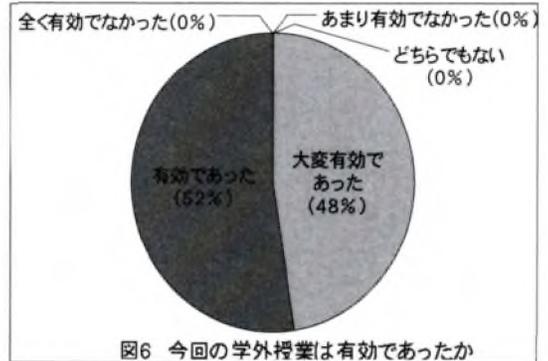


図6 今回の学外授業は有効であったか

また、自由記述式より以下のことが明らかとなった。

①大変だったこと

- ・フィッティングがミスするとショーが台無しになるので、本番が近づくにつれ、プレッシャーに押し潰されそうになった。
- ・朝から晩まで立ち通して延々作業が続いた。休憩もなく、水も飲めず、食事でもできず、体力的にも限界でとても辛かった。
- ・自分が付いたスタイリストさんからの確かな指示を受けられず、他のスタイリストさんからバラバラの指示をされたので、何を信じていいのか分からず困った。
- ・有名モデルを見たのが初めてだったので緊張した。モデルにもスタイリストにも気を遣って、神経が磨り減る程しんどい思いをした。

②良かったこと

- ・普通ではこんな本格的なファッションショーのフィッター体験をしたり、裏方の仕事を間近で見ることなんて絶対になく、本当に貴重な経験ができた。
- ・憧れのスタイリストの仕事を間近で見ることができ、それも自分自身で体験できたので、夢のような時間だった。
- ・普段雑誌やテレビに出ている、雲の上の存在であるモデルさんに接することができて、とてもテンションが上がった。
- ・モデルさんやスタイリストさんがとても優しく教えてくれ、気さくだったことにびっくりしたし嬉しかった。
- ・華やかなショーの舞台裏の「裏事情」が見れたことと、自分もショーを作り上げる一員となれたことがとても嬉しかった。

③発見できたこと

- ・スタイリストは一見華やかで楽しそうな仕事に見えるけど実際は全く違って、体力第一！しかも精神的にもタフでないとやっていけない世界だと分かった。
- ・モデルのヘアスタイルはヘアメイクのスタッフが行っていると思っていたけど、舞台裏で時間のない時は、モデル自身がヘアチェンジを行っていて、スタイリストも手伝って行っていた。
- ・衣装に合わせる小物ひとつひとつ、どんなに小さな物にも（ブローチやピンバッジにも）、どこのブランドから借りているかが分かるように、シールを貼っていた。
- ・意外とランウェイは滑るし歩きにくい、そのため靴の裏には滑り止めのガムテープを貼る。しかもモデルのウォーキングした時にガムテープが見えないように、つま先部分だけに透明なガムテープを貼らなければいけないことには驚いた。
- ・高飛車だと思っていたモデルさんが、裏方にもすぐく気を遣っていて、これもモデルの世界を上手く生き抜く技なのかと思った。
- ・フィッター参加を自分で希望したくせに、食事ができない、休憩もとれないと文句ばかり言っていた私たちとは逆に、スタイリストの方々は何ひとつ文句も言わず、食事なし、休憩なしで、黙々と作業をしていた。本当に好きでないとできないと思った。
- ・自分たちは必死でフィッターをやっていたけど、実際は「使えない学生」だったと思う。こんな未熟な私たちに文句や嫌味を言わず、優しく指示してくれたスタイリストさんに感謝しています。
- ・スタイリストという仕事は、生半可な気持ちでは絶対にできない。本当にファッションが好きで、根性がないと務まらないと思った。
- ・バックステージでバタバタ着替えていたモデルもステージに立つと、そんな素振りを一切見せず、堂々とランウェイを歩いている姿にプロ魂を感じた。
- ・スケジュールなんてあってないようなもの。時間的拘束が非常に長くて重労働で、文句言えない本当に大変な世界だと思った。私には絶対にできない仕事だと痛感した。

5. 結 論

今回クーニーカフェ社の群馬氏からフィッターのお話を頂戴したことで、ファッションショーにおけるスタイリストの仕事に補助するという、例年にはない貴重な経験を得ることができた。アンケート結果からも、学生たちが貴重な体験ができた、一生このような経験はできないとの感想を持っていることが分かる。また、図 2, 5 から、スタイリストの仕事を目の当たりにしたことで、華やかな印象だけを抱きがちなスタイリストが、実際には大変な仕事であるということを理解できていることが分かる。

この結果を受け、スタイリスト演習については、実学が非常に重要であり、今回の学外授業のような実践的授業の展開が必要であるという結論に至った。

それから、最終授業で『Sweet Society 2009 X' mas』のDVDを上映した。学生たちが体験したのは舞台裏で、自分たちが衣装を着せたモデルが、どんな様子でランウェイを歩いているのかという表舞台の部分は全く見ることができなかつたため、学生たちの「頑張りの結果」を見る機会を設けたく思い、群馬氏に無理をお願いし、スタイリスト演習の最終授業に間に合うようにDVDを編集し、送ってもらった。学生たちはDVD鑑賞時には、観客席側から客観的にファッションショーの様子を見ることとなり、バタバタと嵐のように過ぎ去ったフィッター体験を改めて反省したり、自分のフィッティングが良くてきたと誉め合ったりしていた。自分たちの頑張りの結果を「形」として見ることにより、達成感、充実感を味わえたようであった。学生の「頑張り」に対し、教員側もその「結果」をきちんとフィードバックしてやるのが非常に重要であると考えた。

それから、今回の学外実習は2コマ分の振り替え授業として実施したが、拘束時間（12時間）に相当するコマ数への振り替えを希望した学生もあり、今後の検討課題としたい。

*実習当日は拘束時間が12時間に及ぶため、事前に学生の保護者から参加の同意書を提出してもらっている。また当日は教員2名で引率した。

<実習風景>



モデルの出順と衣装が合っているか確認



靴の裏に滑り止めのゴムテープを仕込み中



『フィッティングカード』

モデルの出順、衣装の付属小物が全て書かれている



フィッティングカードを何度も確認



ぴったりフィットするドレスはフィッター3人がかり



『Sweet Society 2009 X' mas』感動のフィナーレ

6. 引用文献・参考文献

- ・ファッション専攻就職状況、2009年度
- ・本山光子『FASHION STYLE PLANNING』改訂版、ファッション教育社、2009年
- ・林泉『ファッションコーディネートの世界—スタイリスト、コーディネーターのための基礎知識とテクニク—』文化出版局、2002年
- ・Sweet Society 企画提案書、Sweet Society 実行委員会、2009年

<ピアスーパーバイザーからのコメント>

ファッションショーの舞台裏という普段の生活からは見ることのできない仕事の現場を体験した学生によるアンケートの結果を元に、学生の職業理解度や授業の有効度を調査されたもので、体験型授業の効果を再認識できた。自由記述の内容からはこの現場の熱気や仕事の大変さがよく伝わって来る。学生の体験がいかに貴重なものであったかを物語っており、全員がこの授業を有効であったと評価しているのもうなずける。体験時間数とコマ数の関係を今後の検討課題とされており、この点も興味をもって検討結果を待ちたい。

(担当：児童教育学科 小林伸雄)